海外における国際大会

17eme CHALLENGE GEORGE MARRANE
（通称フランスカップ）に参加して

日本協会理事　植村　繁

今までの遠征レポートは当然のことながら試合そのもの、特に技術面、精神面についてのものが大半であったように思う。それはそれなりに必要であり、今後への問題提起があった。

しかし、運営面についての報告は少なかったように思う。プライベートであっても国際大会の運営には学ぶべき面が多々あると考えこれを重点にまとめて見た、過去２回の遠征経験があると言っても２年半ぶり、それになんと言っても言葉が不自由な身では思うように学べなかったが17回という長い歴史をもつこの大会から得るものは多かった。以下思いつくままに記して見る。

１、大会規模

参加・７ケ国（８チーム）
会期・５・19～24（６日間）
会場・９ケ所

２、運営全般

非常に良く運営されていたが、中枢部と末端の差は大きく、現場係員は単に労力を提供しているに過ぎず質問にはほとんど答えられない。役員はユニフォームを着ていないし名札をつけているわけでも無いので、誰が何の担当で何という名前なのか全くわからない。

言葉をはじめすべてがフランス流で運営されていたが、プライベートな大会であっても国際大会である以上もう少し外国人に対する配慮が欲しかった。文書等に英語が併記されているだけでお互いにずいぶん楽になるのではないだろうか。

３、本部

大会本部の所在がはっきりせず、スケジュールの確認、変更依頼等に支障があった、とくに予選段階では会場が数箇所に分れるため余計に不便を感じた。

４、スケジュール

空港到着と同時にスケジュール表が渡されたのは有り難かったが、すべて仏語のため辞書片手での確認が一苦労であった。

タイムスケジュールがすべて出発時刻で記入してあり、地理不案内の我々は現地に何時頃到着するのかがわからず、会場到着から試合開始までの時間が読めず困惑した。試合終了後のパーティーなどは、始まる時間からして守られず、したがってホテル帰着は常に遅れ放題。

５、競技場

町の体育館であってもすべて正規コートが取れる。しかし天井の高さ、照度等国際試合にはどうかと思われるものもある。概して清掃が悪く、床面がほこりで滑り危険。また、フロアーが細長くコートを片側に寄せて作ってあるため、エンドラインぎりぎりに壁のある側と後に客席のある側とがあり、キーパーがとまどうことがある。

６、輸送

ホテル、練習場、試合場等の間の輸送はすべてバスで行われたが、大きな問題は無く、比較的スムーズに運行された。しかし、バスが遅れても本部との連絡が取れないため理由がわからずイライラすることがあった。

毎日のようにバスも運転手も変わるが、皆明るく親切で気持ち良かった。

７、宿舎

ホテルは２ツ星でまあまあのところ。しかし朝食をとる食堂がホテルの収容人員に比べて狭く、セルフサービスにもかかわらず入り口前に100人を超す行列で20分以上待たされることもしばしばであった。日本のようにチームごとに時間指定ができたらよい。ホテルはどこでも人手不足で、サービスを云々する以前の問題。このような状態では伝言など思いもよらず、日本からのＦＡＸなどこちらから御用聞きに行かなければ本人の手元には届かない。

８、食事

食事の質はまあまあ。欲をいえばきりもないが、もう少しきめ細かさがあったらと思う。朝のホテルの食堂、昼夜の食堂いずれもセルフサービスのため混んだ後に行こうものなら、ろくなおかずも無いことがあり、選手には気の毒であった。

食事の時間にしても、食堂サイドの都合が優先のようだが、もう少し調整して欲しかった。

9、レセプション

形式をきらうのはフランス人の国民性だろうが運営はとにかく下手。手順が全くわからず、行き当たりばったりでしばしば立ち往生。あまり型にはまったものも好ましくないが、何時始まったのか何時終わったのかわからないのも困る。しかしそれぞれに心暖まる歓迎をしていただいた。

特に開催各地の市長、助役をはじめとする行政サイドの応対は、形式的に出席するだけの日本のそれとは雲泥の差。格式張ったスピーチはほとんどなく歓談することを主にしている。

会場も改まった場所ではなく体育館の一室を使用したのが大半で、気軽に集まれる雰囲気であった。

10、選手係

役員の任務がはっきり指示されていないのか、個人の都合が優先するのかわからないが、忙しくて食事をしていないから先に行ってくれなど。これでは不測の事態が発生した場合のことなどを考えると不安である。もっと行動力のある若手男子を配属すべきではなかろうか。

11通訳

ボランティア主体のためか、勉強がてら遊びが半分の人が多かったように思う。通訳としてはほとんど役に立たない。会議では判断に苦しみ、質問に対する適時適切な答えなど望むべくもない。

会議、レセプションなどでほとんど同時通訳できる人材を持つチームと数分の一も伝えることの出来ない通訳を割当られたチームの差は試合以前の問題であろう。

以上批判的なことばかり羅列してしまったが、日本で国際大会を開催する際の参考としてお役に立てばとあえて書き記した。

第17回ジョージ・マレーヌ杯チャレンジカップ大会を振り返って

全日本男子チーム監督・蒲生晴明

今回の遠征は、第17回ジョージ・マレーヌ杯チャレンジカップ大会というヨーロッパでも伝統あるチャンピオンシップに出場しましたが、この大会は、回を追うごとに大規模な大会になってきており、本年は、バルセロナ・オリンピックが開催される年でもあるということ、また、地元フランスがオリンピックに出場することも相俟って一段と熱気をおびたオリンピックの前哨戦ともいうべきビックゲームでした。

参加国もそういった意味で、現在世界No.1のスウェーデン、No.2の旧ソ連（今回独立国家共同体、略式C.E.I.）、No.3のルーマニア、そして、チェコスロバキア、キューバ、地元フランスのオリンピック出場国に、全日本と主催のU.S.IVRYの8チームでしたが、現在の世界のトップクラスで強豪揃いのチームばかりでありました。

我々全日本チームとしても、大変良い経験を積める最高のチャンスであったことはいうまでもありません。

この強豪揃いの中で、我々は積極的なディフェンスでアタックし、勝利するまではいきませんでしたが、第1戦のフランスには、大接戦の末29－33の4点差の惜敗。また、第2戦の世界1のスウェーデンにも後半残り7分まで食い下がることができました。第3戦のキューバには、これまた大接戦の結果敗れたわけですが、惜しくも1点差のゲームでした。

いずれにしても、3月のヨーロッパ遠征の時点に比べ一概には言えませんが、積極的なディフェンスからの速攻での得点を含め、得点が増加したのは明るい結果であると考えております。また、ナショナル選手としての自覚と意欲が徐々にでてきており、戦う前の精神的なハンディは、少しずつではありますが減少している戦いぶりでありました。

しかし、その反面積極的ディフェンスによるスタミナ不足からの失点の増加、また、激しい攻防の中での平常心で戦える精神力不足などは、顕著に受け止めなければなりません。

これについては、各国とも大型化がさらに進み、日本にとってその大型選手との接触プレーによるダメージが、後半になってのスタミナおよび精神力に影響してくるものと考えられます。

いずれにしても、大型選手に対する対策は過去からの課題であるわけですが、その他にも世界のトップクラスと対戦したことにより、課題が数多く検出できたことも今回の遠征の成果として感ずるところであります。

今後は、やはり何と言っても基本技術のマスターを優先し同時に基礎体力の養成とをじっくりと実施していくように計画して行く考えです。

ヨーロッパ・ヨーロッパと言っても、まずアジアを勝ち抜いてからのことであります。

目標を忘れず、少しずつでも着実に伸びていくよう努力していく考えでおりますので、どうか皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

実連だより

ハンドボールに夢と感動を求めて

全日本実業団ハンドボール連盟　市原則之

今般、理事会の要請により伝統ある全日本実業団ハンドボール連盟理事長の大役をおおせつかることになりました。

ここ数年の実連は、永年に亘り先輩諸氏が築いてこられた実績を基に、渡辺佳英会長の好リードを得て、植村繁理事長の緻密な行動力により、活発に活動していた時だけに、理事長交代がそれらに水を差しはすまいかと、いささかの不安を感じているところです。

したがって、本来ならば、植村氏にもう少し理事長を続けて頂くか、あるいは沢山の立派な先輩諸兄の中よりお願いすべきところでありましたが、渡辺会長と植村理事長が日本協会の副会長並びに常務理事にそれぞれご就任になり、併せて、湧永副会長の健康上の理由による辞任等、諸般の事情が重なり、誠に不本意ではありましたが、6月1日を以ってお引き受けすることになりました。何れにしろ、関係各位のご協力なくしてスムーズな組織運営は出来ないと思いますので、どうか皆様方の格段のご支援とご指導をお願い致す次第です。

拘、スポーツの普及・発展には、いろんな方法がありますが、一般的には底辺の拡大と頂点の強化が必要であることは象知の通りで、どの競技団体もこの2点に最大の努力を重ねているようです。また、全日本実業団連盟も同様に、今日まで沢山の関係者が、いかにしたらメジャーなスポーツになるかを常に念頭に幾多の努力を重ねて来られました。こうした努力が実って、「実業団リーグ」は、実業団連盟より独立し、「日本リーグ」となって日本協会の看板事業として定着し、ハンドボールの普及と頂点強化に多大な貢献を致しております。まだメジャースポーツにするには幾多の懸案事項を抱えておりますが、運営委員のみなさんのたゆまぬ努力とアイディアのお陰で、マスメディアに乗る機会も年々増え続け、大衆スポーツとして認知されつつあります。

しかし、今後はこの「日本リーグ」のみにハンドボールの普及・発展のすべてを託すのでなく、もっと多角的な面より活動を続けて行かなければなりません。また、日本が再びアジアの王者を奪還するには、抜本的強化策が必要であることはいうまでもなく、単に日本と韓国のナショナル選手の年令差だけを比較してみても、早急にジュニア強化の施策を打ち立てなければなりません。これには指導者や指導システムの問題外沢山の課題が山積していますが、何といってもこうした事業を興すに必要なものは財源であります。

そこでこの財源確保の役割を果たすのが、日本リーグの出身母体でもある実業団連盟ではなかろうかと考えます。日本協会の中にはいろんな部門が活動していますが、人には得手、不得手があるように、教職界の人は普及や技術、そして審判、あるいはジュニア層の強化といった分野が得意で、反面、資金を生み出すイベントを計画したり、国際的な感覚での渉外活動やマスメディアを利用しての広報活動等は企業出身者が幾分得意であろうかと思います。

つまり、それぞれが適材適所に得意な分野で動いてこそ真の組織力が発揮され大きなパワーを生み出します。したがって、実業団ハンドボール連盟は自らの分をわきまえて大きくハンドボール界に貢献していく為にも、沢山の国内外のイベントを企画し、これらを広くマスメディアに乗せて、普及活動やナショナル強化活動に結びつけ、そして再び男女ナショナルチームがオリンピックに出場出来るよう、多くのハンドボールファンに〝大きな夢と感動〟を与えていかなければなりません。

それには、実連加盟チーム各位のご理解とご協力を得て、渡辺会長を中心とした役員全員が一丸となって目的に邁進出来るよう頑張る所存ですので、日本協会並びに各連盟及び関係各位の絶大なご支援をお願い申し上げます。

東京協会だより

4月に滝口前理事長（現会長代行）から福本理事長へバトンタッチされ、新年度が始まりました。

5月はじめ、当協会理事で日本の代表的なレフェリーの島田房二、後藤登両氏がバルセロナ・オリンピックのレフェリーに選ばれたとの喜ばしいニュースが入ってきました。昨夏のアジア選手権兼オリンピック予選で、出場権を失なった日本のハンドボール界に、明るい話題を提供してくれた両氏の活躍を、日本中のハンドボールファンは期待していることでしょう。両氏は、日本を代表するレフェリーでありながら、先日の都民大会では、卒先し3試合の笛を吹くなど、日頃からのひたむきな努力が実り、めでたく今回のオリンピックレフェリーに選ばれたことと思います。是非すばらしい笛を吹いて帰国してもらいたいです。

楽しい大会運営を目指して

～お手伝いいただける方、ご連絡ください～

東京都協会の事務局は、大崎電気工業株式会社のご好意で、本社秘書室に置いていただいています。そこで業務遂行にあたっているのが、浦山洋子さんです。浦山さんは、本業（秘書）の合間に大崎電気ハンドボールチームの主務、そして昼休みや時間過ぎに、東京都協会の事務処理を行なっています。マンモス東京は、高校チーム登録だけでも（男女）200以上あり、登録切替時などは、毎日帰宅が遅くなってしまうそうで、その業務量は大変なものです。

6月から、第17回日本リーグが始まりましたが、今年度前期、後期2日ずつ東京大会を開催します。どちらも平日の夜、東京体育館での開催で、仕事帰りのビジネスマン（ウーマン）に見てもらいたくて、東京体育館がオープンした時から行なっております。前々回より前回、前回より今回と入場者が増えており、近い将来6千人収容の東京体育館を、いっぱいにしたい思いでみんなが大会運営に励んでいます。また、昨年度の日本リーグ最終戦には、初めての試みで、小学生ドッヂボール「ボンボンカップ」とのジョイントを行ないました。中学生になったら是非ハンドをやってもらいたい希望をこめた試みは、今年度も日本リーグプレーオフとジョイントの予定です。みなさんも一度足をお運び下さい。

12月になりますと、全日本総合選手権が東京体育館で行なわれます。東京都協会のメンバーは、前日の準備から最終日まで4日半、年末の忙しい時期に、職場を離れて大会運営するため各自スケジュール調整に苦慮しています。しかし、東京都協会のメンバーには、これが終らないと正月が来ない人が多いです。来年、再来年は、東京開催でないとのことで、年末に忙しい思いをしなくて済みますが、全日本総合がない年は、残念な気がします。

東京では、毎週のように何らかのスポーツイベントが行なわれていますが、ハンドボールの入場者数が減少しないように、一人一人が知恵を出し合い、楽しい大会運営を目指しています。

また、東京在住、在勤の方でお手伝いいただける方がいらっしゃいましたら、他薦、自薦問いませんので是非事務局浦山さんへご連絡をお待ちしています。(電話・三四四一－二一一〇)

▼平成4年度行事

5月・都民大会（中大、JUKI体育館）
7月・日本リーグ東京大会（東京体育館）・国体都予選（JUKI体育館）
8月・全国高専選手権
11月・東京都選手権（JUKI体育館）
12月・全日本総合選手権（東京体育館）
1月・読売旗争奪関東中学生大会（中大）・読売杯争奪関東ちびっこ大会（中大）日本リーグ東京大会（東京体育館）
3月・日本リーグプレーオフ（国立代々木第一体育館）

大阪協会だより

大阪ハンドボール協会の設立は昭和15年である。その50周年記念行事が神田清会長のもと望月伸三郎（現副会長）を実行委員長として各界からの協力をいただき、平成2年11月4日盛大に実施することができた。

それから1年、ひとつの区切りを終えて新たなスタート台に立っている。

大阪は日本ハンドボールの先駆者といわれつづけ、夢と希望を育て、くれた先輩たちの偉業は大きい……。その功労者、故馬場太郎先生、故山田計先生のお姿も今は無い。

それぞれ組織の努力が実り、400チームが登録される大所帯である。

中学校（今井修一委員長）
127チーム
高　校（高橋精一委員長）
197チーム

〝夢を育てて50年〟

大　学（山崎　武代表理事）
26チーム
※社会人（丸井一人代表理事）
50チーム
※実連を含む（森　集代表理事）

現場の指導者の情熱は〝負けたらあかん〟と脈々と引き継がれている。

インターハイ予選は全国で勝つよりも大阪代表を勝ちとることの方が難しいといわれるほどで、毎年激しい戦いが繰り広げられている。大阪市中央体育館で行なわれるようになった決勝リーグには、父母、応援団をはじめ若きハンドボーラーたちで国際大会さながらの盛況を連日見せている。

毎春全国から広く参集し熱戦を展開する恒例となった中学校の対抗戦も、平成3年より協会主催とし「フレンドシップ大会」と名称も変え新たなスタートをしている。

大阪―韓国の中学校レベルの交流が神田会長、山中善之祐（協会参与）の尽力で斬道にのったことはなにより喜ばしい。

次代のハンドボール発展を占う重要な要素に、小・中・高の育成はいうまでもないことだが、郡・市の連盟設立とその充実であろう。

中体連、高体連、学連、実連などそれぞれは立派に組織で活動しているが、各府県共に郡・市レベルの連盟組織が少ない。大阪では7年前より独自の郡市大会を開きその助長に役立てている。

大阪市（山田稔会長・協会副会長）、堺市（山本清二会長）、豊中市（遠藤信三会長）、八尾市（内田邦夫会長）、岸和田市（渡辺忠重会長）、貝塚市（佐伯未子会長）、池田市（細井平会長）、が既存しているが、前田吉弘（協会参与）の力添えで高石市が今年中に連盟として発足する運びである。

堺市と豊中市の定期戦が22年間も続いているのは全国でも珍しい。大阪市が主催しているハンドボールフェスティバルは、11人制ハンドボールをなつかしむ学連OBも合流し、協会も共催、大阪秋のイベントに定着しつつある。

平成9年、第52回国民体育大会の大阪開催とハンドボール競技の堺市、高石市開催が決定している。府市の組織の確立と共に準備体制が整えられる内で源野幸次（協会理事）が国体準備要員スポーツ主事として教育委員会に加わった。上部組織大阪体育協会には従前より村田弘（協会顧問）が常務理事として、協会を代表し参画されている。

組織が大きく育つ時〝協調〟統合が必要だ。分化↓統合をくり返しながら大きく育てたい。

ハンドボールを通じての仲間づくり、古い人と新しい人との語らい、50周年事業はそんな意味でも大きな役割を果たしている。即ち平成3年10月〝友の会〟(中出盛雄会長）が発足し、情報の提供と若いボーラーたちの激励、その第一弾となったのは、春の高校選抜で見事優勝を遂げた四天王寺高校(繁田順子監督）を祝う宴が催されたことだ。こんな会が何度も開かれることを願いたい。

バルセロナへの夢消えたとはいえ、今日をアトランタへの第一歩として。忍耐・和協・飛躍

第33回全日本実業団選手権大会（男子の部）

本田技研が2年連続2回目の優勝を飾る

第33回全日本実業団選手権男子の部は、5月8日から10日までの3日間、愛知県・枇杷島スポーツセンターで開催されました。

参加チームは前年優勝の本田技研をはじめとした12チームで、各チーム激しい攻防をくり広げた。昨年末の全日本総合で初優勝を飾った日新製鋼は2回戦で湧永製薬の前に敗退。また、第 回の日本リーグで久しぶりの復活優勝を遂げた大同特殊鋼も準決勝で大崎電気に延長の末敗れ、決勝は本田技研と大崎電気の顔合せとなった。

決勝戦も互いに譲らぬ激しい攻防を見せたが、一歩リードした本田が逃げ切って2年連続2回目の優勝を飾った。

1回戦

本田技研熊本 22 （9－10、13－9） 19 **トヨタ自動車**

〔戦評〕前半、10分間は両チームとも堅さからイージーミスが目立ち、3－3と互角の立ち上がりとなる。10分過ぎ、本田熊本が3連続得点で主導権を握るかに見えたが、トヨタ・香井の3連続得点で逆転し10－9で終了する。

後半5分で逆転した本田熊本に対し、トヨタも三輪のミドル等の頑張りで1点差で中盤を迎える。残り10分過ぎまでに速攻、ポストでの連続得点で5点差に広げた本田熊本が追いすがるトヨタを振り切って逃げ切った。

得	〔熊本〕		〔自動車〕	得
0	坂本	ＧＫ	山本	0
0	宮本	ＧＫ	富森	0
2	矢野	ＦＰ	香井	9
0	田中	ＦＰ	川田	1
2	山口	ＦＰ	田村	0
4	川崎	ＦＰ	三輪	7
5	田中	ＦＰ	杉元	2
3	堀内	ＦＰ	大塚	0
2	寺島	ＦＰ	野々	0
2	大中	ＦＰ	光田	0
1	児玉	ＦＰ	山ノ内	0
1	中村	ＦＰ	田中	0
22				19

〔審・岡本・江成〕

日新製鋼 24 （15－8、9－9） 17 **トヨタ車体**

〔戦評〕前半、10分過ぎまで6－1と日新の一方的なリードとなり、このまま日新のペースで試合が運ばれるかに見えたが、イージーミスなどで波に乗り切れないまま前半を終了した。

後半に入っても日新はペースを戻せず17分には20－16とされ、そこでエース西山を投入、西山の3連続得点もあって24－17で日新が勝った。

得	〔日新〕		〔車体〕	得
0	篠原	ＧＫ	宮田	0
0	宇田川	ＧＫ	渡辺	0
4	堀田	ＦＰ	野田	3
3	西山	ＦＰ	君島	0
0	鮎沢	ＦＰ	中山	0
0	甲斐	ＦＰ	大蔵	2
2	木村	ＦＰ	岡部	5
4	池田	ＦＰ	酒井	3
3	源内	ＦＰ	小島	0
2	坂口	ＦＰ	川野	0
0	河崎	ＦＰ	寺嶋	0
6	野中	ＦＰ	長野	4
24				17

〔審・川合・工藤〕

中村荷役運輸 22 （11－8、11－10） 18 **大同特殊鋼星崎**

〔戦評〕前半、中村はGKの好プレーにもかかわらずセットでのパスシュートで手痛いミスを犯し、大量リードを奪うことができない。一方、ラスト6分で森山が退場となった星崎はGKを中心によく守り、11－8と中村の3点リードで折り返す。

後半開始直後、中村は田口が退場。しかし、星崎のルーズボール等から速攻をからめた2連続得点でリードを広げる。また、田口の再び退場の後、星崎は雨宮、呉のダブルマンツーを試みるが、中村は3－4のセットで得点を挙げ、ひけをとらない。結局、このマンツーは最後まで続くが、イージーミスの多かった星崎はあと一歩届かず、18－22と中村の4点リードで終った。

得	〔荷役〕		〔星崎〕	得
0	石井	ＧＫ	松崎	0
0	井上	ＧＫ	五谷	0
1	田口	ＦＰ	森山	3
1	西村	ＦＰ	名取	5
3	朴	ＦＰ	松本	3
3	西宮	ＦＰ	平井	3
10	八尾	ＦＰ	久米	0
1	元島	ＦＰ	横浜	4
2	高木	ＦＰ	本田	0
1	呉	ＦＰ	水谷	0
0	田中	ＦＰ	宮本	0
0	明石	ＦＰ	本舘	0
22				18

〔審・高田・田村〕

三景 21 （11－6、10－14） 20 **三陽商会**

〔戦評〕前半、三陽は出だし2点を連続し、このまま波に乗るかと思われたが、イージーミスが続きそれを三景が得点につなぎ、15分過ぎには7－3とする。三陽はそのまま自分達のペースを取り戻せず、11－6で前半を終了した。

後半は三景がミスを連続して出し、14分には13－13の同点となった。15分には三陽が逆転し、このままいくかと思われたが、三景もふんばり、点の取り合いの好ゲームとなる。ラスト2分で三陽の飯島が退場し、その間に三景・清田のポストシュートで21－20としてそのまま逃げ切った。

得	〔三景〕		〔三陽〕	得
0	神田	ＧＫ	宇田川	0
0	中村	ＧＫ	藤原	0
1	高橋	ＦＰ	濱川	0
3	金井	ＦＰ	飯島	2
5	清田	ＦＰ	小河原	3
2	小金山	ＦＰ	湯井	0
6	小野	ＦＰ	渡辺	3
1	高橋	ＦＰ	佐藤	1
3	高橋	ＦＰ	濱田	4
0	高橋	ＦＰ	田中	3
0	大熊	ＦＰ	近藤	4
0	森田	ＦＰ	大村	0
21				20

〔審・中野・坪井〕

2回戦

本田技研 29 （12－7、17－7） 14 **本田技研熊本**

〔戦評〕前半開始10分までに本田技研はソツのないプレーで7－2とリードを広げる。また、本田熊本も必死に食い下がろうとするのだが、コンビプレーがうまくかみ合わず、加えて本田技研GKの橋本の好キーピングにあってなかなか特点をあげられず、12－7で折り返す。

後半に入っても本田熊本はコンビプレーがネックとなり、セットプレーで攻め切れずに逆速攻で失点するケースが目立ち、29－14で本田技研が制した。

得	〔本田〕		〔熊本〕	得
0	高木	ＧＰ	坂本	0
0	橋本	ＧＰ	宮本	0
4	弥吉	ＦＰ	矢野	1
3	丹羽	ＦＰ	田中	0
6	藤井	ＦＰ	山口	1
0	内藤	ＦＰ	川崎	2
4	梅基	ＦＰ	田中	3
3	平松	ＦＰ	堀内	2
3	山村	ＦＰ	寺島	2
5	関根	ＦＰ	大中	3
0	木下	ＦＰ	児玉	0
1	中里	ＦＰ	中村	0
29				14

〔審・清水・佐塚〕

湧永製薬 32 （12－6、20－10） 16 **日新製鋼**

〔戦評〕前半開始後やや押され気味の湧永だったが、長沢のシュー

トが決まった後、徐々にペースを盛り上げ、両GKの攻防戦へと展開する。その後、湧永・中山のシュートが決まり出し、波に乗ってリードを広げ、12－6で折り返す。
後半に入っても湧永は主導権を譲らず、またGK多田の好プレーも手伝い32－16で勝利を収めた。

〔日新〕		得
GK	篠原	0
GK	宇田川	0
FP	堀田	3
FP	武田	0
FP	西山	4
FP	甲斐	2
FP	林	0
FP	木村	2
FP	池田	1
FP	源内	2
FP	坂口	1
FP	野中	1
		16

〔審・岡本・江成〕

得	〔湧永〕	
0	多田	GK
0	河野	GK
2	酒巻	FP
5	河原	FP
3	玉村	FP
4	堀田	FP
8	中山	FP
5	長沢	FP
0	荷川取	FP
2	鎌塚	FP
0	松本	FP
3	田中	FP
32		

大崎電気 24（11－12、13－8）**20 中村荷役運輸**

〔戦評〕前半15分ぐらいまでは、呉の活躍によって中村のペースで試合が運ばれるが、その後大崎も得点を重ね、一進一退の好ゲームになる。
後半開始直後、大崎はロングシュート、コンビプレーがうまく決まり、波に乗り始めるが、中村も必死に食い下がり、あと一歩のリードが奪えない。結局、試合は24－20で大崎が抜け出し、勝利を得た。

〔荷役〕		得
GK	石井	0
GK	井上	0
FP	田口	2
FP	西村	0
FP	朴	5
FP	雨宮	4
FP	八尾	1
FP	元島	0
FP	高木	2
FP	呉	6
FP	田中	0
FP	明石	0
		20

〔審・小山・佐路〕

得	〔大崎〕	
0	渡辺	GK
0	佐藤	GK
0	大橋	FP
0	珍田	FP
1	武田	FP
6	首藤	FP
5	魚住	FP
2	菅田	FP
0	藤井	FP
4	宮下	FP
0	柏崎	FP
6	土屋	FP
24		

大同特殊鋼 35（18－9、17－8）**17 三景**

〔戦評〕前半、大同は株の巧みなパス回しによって得点を重ね、守っては高い位置でのディフェンスで相手を寄せつけず、試合の主導権を握り、18－9と一方的なリードで折り返す。
後半に入り、三景は出足で高橋がPTをはずし、リズムをつかめないままゲームは展開される。中盤に入っても大同は攻撃の手を緩めず、ロング、ポストシュートでさらにリードを広げて、結局、終始大同ペースで終った。

〔三景〕		得
GK	神田	0
GK	中村	0
FP	高橋	6
FP	金井	0
FP	清田	2
FP	小金山	1
FP	小野	0
FP	高橋	1
FP	高橋	3
FP	高橋	0
FP	大熊	0
FP	森田	0
		17

〔審・川合・工藤〕

得	〔大同〕	
0	秋吉	GK
0	林	GK
3	内藤	FP
2	高村	FP
3	朝生	FP
4	盧	FP
4	藤井	FP
9	林	FP
6	末岡	FP
2	佐藤	FP
0	阿萬	FP
2	宇多村	FP
35		

順位決定戦

トヨタ自動車 30（13－10、17－12）**22 大同特殊鋼星崎**

〔戦評〕立ち上がり、大同星崎の守りが良く、2点リードで主導権を握る。トヨタも三輪のミドル、香井の速攻、サイドシュートで離されず、20分過ぎには逆転する。これに対し、大同星崎は三輪、川田にダブルマンツーディフェンスをしいて食い下がり、13－10とトヨタの3点リードで前半終了。
後半に入っても大同星崎はダブルマンツーから速攻を試みるが、動きの良くなったトヨタは、ポストシュート、パスカットからの速攻で点差を広げる。残り15分で22－12と10点差にしたトヨタが、その後も速攻のリズムで走り勝った。

〔星崎〕		得
GK	松崎	0
GK	五谷	0
FP	森山	3
FP	名取	5
FP	松本	4
FP	平井	4
FP	久米	1
FP	横浜	5
FP	本田	0
FP	水谷	0
FP	宮本	0
		22

〔審・中野・坪井〕

得	〔自動車〕	
0	山本	GK
0	富森	GK
6	香井	FP
4	川田	FP
4	田村	FP
7	三輪	FP
3	杉元	FP
1	野々田	FP
2	光内	FP
1	山ノ中	FP
0	田中	FP
2	中山	FP
30		

三陽商会 29（14－9、15－7）**16 トヨタ車体**

〔戦評〕立ち上がり、4連続得点をあげる三陽が有利かに見えたが、車体も速攻からのコンビプレーで必死に食い下がる。しかし、10分経過後から車体は単調な攻め、イージーミスを重ね、三陽に主導権を渡す引き金となる。
後半に入っても車体は宇田川を中心とした堅いディフェンスを前に攻めきれず、さらにエース野田の負傷退場によって完全にリズムをつかみ損ね、終始三陽ペースのゲームであった。

〔車体〕		得
GK	宮田	0
GK	渡辺	0
FP	野田	1
FP	中山	1
FP	大蔵	2
FP	河合	1
FP	岡部	7
FP	酒井	2
FP	小島	1
FP	川野	0
FP	寺嶋	0
FP	長野	1
		16

〔審・川合・工藤〕

得	〔三陽〕	
0	宇田川	GK
0	高橋	GK
1	濱川	FP
2	飯島	FP
7	小河原	FP
0	湯井	FP
6	渡辺	FP
2	佐藤	FP
4	濱田	FP
4	田中	FP
1	近藤	FP
2	大村	FP
29		

中村荷役運輸 28（16－10、12－10）**20 本田技研熊本**

〔戦評〕本田熊本は、ディフェンスでは中村のポイントゲッター呉にマンツーをあて、オフェンスでは田中、寺島を中心とした早いパス回しでサイド、ポストを攻めた。
一方、中村は田口を中心に高さを生かした攻撃で互角の戦いを見せた。しかし、地力に勝る中村がじりじりと点差を広げ、28－20で逃げ切った。

〔熊本〕		得
GK	坂本	0
GK	宮本	0
FP	矢野	0
FP	田中	0
FP	山口	1
FP	川崎	1
FP	田中	4
FP	堀内	1
FP	寺島	5
FP	大中	6
FP	児玉	0
FP	中村	2
		20

〔審・清水・佐塚〕

得	〔荷役〕	
0	石井	GK
0	井上	GK
4	田口	FP
4	西村	FP
7	朴	FP
2	雨宮	FP
3	八尾	FP
0	元島	FP
5	高木	FP
2	呉	FP
0	田中	FP
1	明石	FP
28		

日新製鋼 32（17－6、15－7）**13 三景**

〔戦評〕前半出足、両チームとも緊張が解けず、イージーミスが連続して速攻戦をくり広げるが、宇田川の好キーピングに助けられた日新が抜け出し、得点を重ねていく。一方三景は、つまらないミスが失点につながるケースが目立ち、日新優位に試合が運ばれる。

後半に入り、いくらか日新の攻撃は衰えたが、ロング、ポストシュートを確実に決めて32－13で勝利を飾った。

	〔三景〕	得
GK	神田	0
GK	中村	0
FP	高橋	1
FP	金井	4
FP	清田	3
FP	小山（金）	2
FP	小野	2
FP	高橋	1
FP	高橋	0
FP	福士	0
FP	森田	0
		13

審・田村・高田

	〔日新〕	得
GK	篠原	0
GK	宇田川	0
FP	堀田	5
FP	西山	5
FP	鮎沢	1
FP	甲斐	0
FP	木村	2
FP	池田	5
FP	源内	2
FP	坂口	2
FP	河崎	2
FP	野中	8
		32

11位決定戦

大同特殊鋼星崎 23（14－10、9－12）**22 トヨタ車体**

〔戦評〕両者速攻のリズムで点を取り合うスピード感あふれる展開でスタートする。前半なかばより大同星崎が相手の攻めを読み、ディフェンス体型を変え、守りのリズムをつかみ徐々に点差を広げ、14－10で折り返す。

後半、トヨタ車体は大同星崎の横浜にマンツーマンを試みる。残り5分頃には車体GK宮田の好守で1点差まで縮まるが、残り1分のところで大同星崎・平井のポストシュートが決まり、2点差とした時点で勝負は決まった。

	〔車体〕	得
GK	宮田	0
GK	渡辺	0
FP	野田	0
FP	中山	1
FP	大蔵	7
FP	河合	5
FP	岡部	4
FP	酒井	3
FP	小島	0
FP	川野	0
FP	寺嶋	0
FP	長野	2
		22

審・清水・佐塚

	〔星崎〕	得
GK	松崎	0
GK	五谷	0
FP	森山	2
FP	名取	7
FP	松本	4
FP	平井	2
FP	久米	1
FP	横浜	7
FP	本田	0
FP	水谷	0
FP	宮本	0
		23

9位決定戦

三陽商会 33（14－10、19－14）**24 トヨタ自動車**

〔戦評〕前半、個人技で点を取る三陽に対し、速攻、三輪のミドルで応戦したトヨタ、14－10で三陽リードで折り返す。

後半、動きの良くなった三陽がディフェンスからの速攻でリズムをつかみリードを広げる。トヨタも香井のサイド、川田、三輪のミドルで応戦するが、ディフェンスが甘くなった。リズムに乗った三陽はセットでも足がよく動き着々と加点、大差をつけ快勝する。

	〔自動車〕	得
GK	山本	0
GK	富森	0
FP	香井	5
FP	川田	4
FP	田村	1
FP	三輪	9
FP	杉元	3
FP	野々	0
FP	光田	0
FP	山ノ内	2
FP	田中	0
FP	中山	0
		24

審・中野・坪井

	〔三陽〕	得
GK	宇田川	0
GK	高橋	0
FP	濱川	2
FP	飯島	5
FP	小河原	3
FP	湯井	0
FP	渡辺	2
FP	佐藤	3
FP	濱田	2
FP	田中	12
FP	近藤	1
FP	大村	3
		33

7位決定戦

本田技研熊本 21（13－7、8－10）**17 三景**

〔戦評〕前半から両チームともスピーディな試合運びで互角の戦いをしていたが、ディフェンス力に勝る本田が速攻や川崎のミドルシュートなどで本田が主導権を握り前半を終了。しかし、後半に入り動きの止まった本田から三景が速攻で3連続得点で反撃するが、得点チャンスにイージーミスを連発してしまい、そこをついた本田が得点を重ね、勝利を収めた。

	〔三景〕	得
GK	神田	0
GK	中村	0
FP	高橋	1
FP	金井	2
FP	清田	5
FP	小山（金）	0
FP	小野	4
FP	高橋	0
FP	高橋	5
FP	福士	0
FP	森田	0
		17

審・田村・高田

	〔熊本〕	得
GK	坂本	0
GK	宮本	0
FP	矢野	3
FP	田中	0
FP	山口	2
FP	川崎	2
FP	田中	1
FP	堀内	4
FP	寺島	2
FP	大中	7
FP	児玉	0
FP	中村	0
		21

5位決定戦

日新製鋼 29（13－12、16－10）**22 中村荷役運輸**

〔戦評〕前半、攻守とも全くの互角で両チーム抜け出すことはできなかったが、日新の1点リードで折り返す。

後半、日新は一気に3点をリードし主導権を握る。一方、中村も呉のロング、高木の速攻等で追いすがり、1点差まで縮め必死に食い下がる。残り10分過ぎまで勝敗の行く方がわからなかったゲームも、GKの好守からの逆速攻等、休みなく攻めた日新が徐々に点差を広げ始める。勝負を決めた残り5分過ぎからは、日新が着実に点差を広げた。

	〔荷役〕	得
GK	石井	0
GK	井上	0
FP	田口	6
FP	西村	0
FP	朴	2
FP	雨宮	1
FP	八尾	2
FP	元島	0
FP	高木	4
FP	呉	7
FP	田中	0
FP	明石	0
		22

審・清水・佐塚

	〔日新〕	得
GK	篠原	0
GK	宇田川	0
FP	堀田	4
FP	武田	0
FP	西山	6
FP	鮎沢	0
FP	甲斐	2
FP	木村	6
FP	池田	1
FP	源内	3
FP	坂口	6
FP	野中	1
		29

準決勝

本田技研 27（15－10、12－7）**17 湧永製薬**

〔戦評〕立ち上がり、本田は平松の2連続得点をきっかけに4点のリードを奪い、波に乗り始めるかに見えたが、湧永も鎌塚、中山らの頑張りによってスコアを並べ、以後一進一退の好ゲームへと展開するが、本田が一歩抜け出し、15－10で折り返す。

後半に入り、湧永は2連続得点等で本田に迫るが、橋本の好キーピングにより得点のチャンスをつかめない。しかし、2点差で食い下がり緊迫したゲームが続いたが、残り10分を切り、湧永の重なるイージーミスから本田がスパートをかけ、27－17と勝負を決めた。

〔湧永〕	選手	得
GK	多田	0
GK	河野	0
FP	酒巻	3
FP	河原	0
FP	玉村	0
FP	堀田	2
FP	新井	0
FP	中山	2
FP	長沢	1
FP	荷川取	0
FP	鎌塚	2
FP	田中	7
		17

〔本田〕	選手	得
GK	高木	0
GK	橋本	0
FP	弥吉	0
FP	丹羽	7
FP	藤井	2
FP	立木	2
FP	内藤	5
FP	梅基	3
FP	田口	0
FP	平松	5
FP	山村	2
FP	関根	1
		27

〔審・岡本、江成〕

大崎電気 25（13－13、8－8、2－1、2－1）**23 大同特殊鋼**

〔戦評〕前半のゲームは展開が早く、両者速攻を交えたロングシュートの打ち合いとなり、混戦から抜け出すことができず、13－13のタイスコアで折り返す。

後半の出足は、ともにシュートにつながるパスミスが多く、また GKの好プレーも功を奏し、得点にたどり着くことができない。中盤、大崎は3点のリードを奪うが3段スカイプレー等の見事なシュートを決める大同に一気に追いつかれ、さらに菅田の2連続退場が災いし、逆にリードを許してしまう。試合はそのまま一進一退の展開でもつれにもつれた末、延長戦に持ちこまれる。

延長前半、再び速攻、また逆速攻という激しい展開になるが、1分後、大同エース林が退場、大崎に2点のリードを与える。大同も林のロングシュートで1点を返して折り返す。延長後半、開始早々大同はコーナースローを巧みに使ったループシュートで同点に追いつく。しかし、大崎はラスト1分で速攻から魚住のシュートが決まり、さらに土屋がダメ押しの得点をあげ試合を決めた。

〔大同〕	選手	得
GK	秋吉	0
GK	林	0
FP	内藤	1
FP	高村	4
FP	朝生	0
FP	植木	0
FP	盧	2
FP	藤井	1
FP	林	10
FP	末岡	4
FP	佐藤	1
FP	宇多村	0
		23

〔大崎〕	選手	得
GK	工藤	0
GK	渡辺	0
FP	大橋	3
FP	珍田	0
FP	武田	0
FP	首藤	6
FP	魚住	2
FP	菅田	0
FP	藤井	3
FP	宮下	8
FP	柏崎	0
FP	土屋	3
		25

〔審・小山、佐路〕

3位決定戦

湧永製薬 32（17－12、15－16）**28 大同特殊鋼**

〔戦評〕立ち上がり大同は林、盧のロングシュートで得点。一方湧永は、堀田のサイドや田中のポストシュートなどで互角の戦いをしていたが、中盤から大同のイージーミスなどで湧永が4連続得点をし主導権を握った。

しかし、後半に入り大同は盧のロング、末岡のポストシュートで2連続得点をし、ディフェンスでは湧永のエース中山にマンツーをあて反撃をしたが、前半の得点差は大きく、湧永が勝利を収めた。

〔大同〕	選手	得
GK	秋吉	0
GK	林	0
FP	内藤	1
FP	高村	0
FP	朝生	1
FP	盧	15
FP	藤井	1
FP	林	5
FP	末岡	3
FP	佐藤	2
FP	阿萬	0
FP	宇多村	0
		28

〔湧永〕	選手	得
GK	多田	0
GK	河野	0
FP	酒巻	5
FP	河原	3
FP	玉村	1
FP	堀田	4
FP	中山	7
FP	長沢	5
FP	鎌塚	1
FP	富田	0
FP	松本	0
FP	田中	6
		32

〔審・小山、佐路〕

決勝

本田技研 26（15－12、11－11）**23 大崎電気**

〔戦評〕決勝戦にふさわしく両チームとも気迫に満ち、攻守の切り替えも速くスピーディな試合運びで最後まで見応えのあるゲームであった。

立ち上がり、大崎の両エース、宮下、魚住の連続得点で3点リード、主導権を握ったかに見えたが、15分過ぎにGK橋本の好守からの逆速攻で同点に追いついた本田が守って速攻のリズムに乗り出し、3点リードで折り返す。

後半、大崎も追い上げ、10分過ぎには首藤のポストシュートが決まり同点に追いつくが、本田も藤井のシュートが決まり、すぐに1点差と再びリードする。終盤、本田はスカイプレーでの2連続得点で3点差にし、さらに加点、追いすがる大崎をふり切った。

両チームの持ち味を出し合った好ゲームであった。

〔大崎〕	選手	得
GK	工藤	0
GK	渡辺	0
FP	大橋	0
FP	珍田	1
FP	武田	2
FP	首藤	3
FP	魚住	9
FP	菅田	0
FP	藤井	3
FP	宮下	4
FP	柏崎	0
FP	土屋	1
		23

〔本田〕	選手	得
GK	高木	0
GK	橋本	0
FP	弥吉	1
FP	丹羽	1
FP	藤井	8
FP	立木	0
FP	内藤	2
FP	梅基	0
FP	田口	1
FP	平松	6
FP	山村	7
FP	関根	0
		26

〔審・岡本、江成〕

日韓中学生親善交流ハンドボール大会 大阪中学生韓国遠征について

大阪ハンドボール協会

１９９０年12月５日付けの大韓民国ハンドボール連盟・洪淳泰名誉会長より大阪ハンドボール協会・神田清会長宛ての手紙で、小学生は'90年夏より京都田辺で開催されている全国小学生ハンドボール大会に交流参加し、'91年夏には韓国に招待予定で実施予定ですが、中学生は大阪でしたいとの希望のがありましたので、日本の中学生の大会日程から８月の開催は困難であるが、３月末に大阪で開催している全国中学生ハンドボール親善交流大会の時期であれば、学校間・大阪だけの交流でなく全国の中学生チームと交流が可能ですと返事を送ると、'91年３月末より交流希望の返事が帰ってきましたので、急遽、信用組合大阪興銀に協力をお願いし'91年３月末実施致し、その時、洪・神田両会長、当時の伊藤日本協会担当常務理事、大阪興銀（韓国新韓銀行）会長と話し合い、今後大阪開催時は大阪興銀・ソウル開催時は新韓銀行の特別後援で継続実施するよう取り決めました。

'92年度は大阪中学生チームが韓国に交流試合に行くことになり、'92年３月31日より４月７日まで、大阪フェリー株式会社のご協力ご厚意により、大阪ハンドボール協会・神田清会長以下役員11名選手33名が韓国ソウル・プサンに遠征しました。

以下、同行しました織田先生の報告をご紹介します。

中学校日韓交流大会に参加して

大阪・堺市立大浜中学校・織田俊三

１９９２年３月31日より４月７日までの中学校日韓交流大会に、日頃指導している堺市立大浜中学の男女と私立大谷中学の女子と共に参加し、多くのことを勉強することができました。いか、自分の印象に残ったことを書かせていただきます。

今までにも韓国流のフットワークなどのトレーニングについては、高校、実業団チームに教えてもらい、昨年７月より取り入れてきたのですが、「見ると聞くとは大違い」というか、いくつかの点での違いがありました。

まず、韓国チームの強調のポイントは、常にひざでした。ひざを強化するためのトレーニングが常に盛り込まれていました。

次は、サイドステップです。サイドステップの時に進行方向の足をかかとからつま先へと動かす方法を教えられたのですが、韓国の女子チームは、すべてつま先でのステップでした。この違いについて質問すると、「男子は下半身が強いし、相手のスピードについていくためには、つま先でのステップがないとだめだ」とのことでした。そして、ソウルからプサンに移ると女子でもつま先だけのステップをしていました。（ただし上級生だけでした）。

次はシュートです。シュートは腕の振り切りよりも、打点を上げひじから先の振りとスナップだけでスピードをつけ、よりコントロールよいシュートを打っていました。女子では、スピードはないけどディフェンスの技をかわし、確実にキーパーの逆にロング、ミドルを打つことができるのには驚かされました。

最後に、ハンドボール競技の充実のためには、指導者の技術向上とスタッフの問題で考えさせられることが多かったと思います。

私は、１９７４年より中学校のハンドボールの指導をしてきました。しかし、ハンドボールをまったく知らない状況からのスタートでしたから、子どもと汗を流しながらの指導となり、体系的、理論的な指導はまったくできませんでした。そんな中で、第７回全国大会（月州中）と第19回（金岡北）に出場し、共に３位に入賞したのは、子どもたちの力であり、指導により力量をつけた結果ではありません。

今でも、全国には私のように苦しみながらハンドボールの指導をしている人はたくさんいると思います。中には「知ってるつもり」で指導している人もいるのではないかと思います。

私のような指導者の悩みを救うためには、もっともっと「協会」がリーダーシップをとり、日本のハンドボールの指導者のレベルを上げるような活動をすべきではないでしょうか。韓国のことは聞いていたけど、中・高校のつながりの強さと指導スタッフの充実ぶりを見てつくづく思いました。このような仕事は協会の役割だと思います。また、私のように（全国に数多くいると思います）一人で男女を見ているなどということはまったくありませんでした。

これからも、ハンドボール競技の質的向上のために、ハンドボール協会の積極的な指導を期待しています。そして、海外遠征で浮かんだことは、みんなが交流できるような場をつくり、日本のハンドボールの方を向上させていきたいものです。

技術・戦術体系の確立と効果的な指導法の研究

平成3年度の「公認コーチ・シンポジウム」が3月14日～15日の2日間、東京オリンピック記念青少年センターで開かれました。

会場は年度末の忙しい中、A、B、C級の公認コーチ43名、日本リーグの監督・コーチ等21名のあわせて64名が参加するという盛況ぶりでした。

シンポジウムはメインテーマとして「技術・戦術体系の確率と効果的な指導方法の研究」をかかげ6つのセッションに分けて進められました。初日は主に世界の技術分析、2日目はレフェリー分析を中心に、ともに、広島アジア選手権のVTRをふんだんに使用しての運営にはフロアーからも「わかりやすく、議論がしやすい」などの評価の声も聞かれました。

バルセロナオリンピック予選の敗退によって、とかく展望を見失いがちになるところですが、今回のシンポジウムは、①日韓のプレイ比較やゲーム分析による客観的な敗因の検討、②日本での一貫した技術指導体系の確立の必要性とその基礎、③技術評価のための監督、審判の協調性の必要、④日本ハンドボールが目指す道、についてひとつの合意が得られた、という感がします。

指導・方法委員会のスタッフの努力によって、VTRやデータ、資料が充分に用意されたのも今回の財産であり、その内容を本誌でシリーズにして掲載したいと考えています。

開講式

・コーチャーズソサイアティ総会

・アジア選手権記録部門報告

・「指導教本」作成経過報告

セッション1　基調講演

『日本ハンドボールの目指す道』　大西武三（指導・方法委員会委員長）

セッション2

『世界のコーチングの動向』

―IHFシンポ報告―

平岡秀雄（指導・方法委）

セッション3

『アジア選手権技術分析』

・中韓チームの技術・戦術の相違　平岡

・クウエイト、カタールチームの技術・戦術の分析

笹倉清則（指導・方法委）

・ディフェンスフットワークの相違

杉森弘幸（指導・方法委）

セッション4

『世界のレフェリングの動向』

大塚文雄（審判部部長）

・トレーナーとレフェリーの共同

・IHFシンポ報告

セッション5

『アジア選手権レフェリング分析』

・トレーナーからの要望

清水宣雄（指導・方法委）

・VTRによる討議

江成元伸（指導・方法委）

セッション6

『日本ハンドボールの目指す道』

・日本ハンドボールの方向

市原則之（前強化部長）

・アジア選手権における技術と戦術の評価

緒方嗣雄（全日本女子監督）

閉講式

〈要約〉

冒頭の総会では、コーチャーズソサイアティ独自の組織と活動が必要との指摘に基づき各ブロック世話人が選出された。（東北―斉藤浩、関東―飯田信行、東海―松浦滋、近畿―山崎武、中国―永井忠和、四国―田中達男、九州―儀間次男、他は未定）

小山浩指導・方法委からアジア選手権でのデータブックが配布され、ランニングスコアやポジション別得点率等のゲームデータ分析がタブレット、パソコン、プリンターの3点セットで簡単にシステム化できることが示され、今後は国内の大会でも実行する方向で検討中である、との報告があった。

岡本研二委員からは、2年前から指導・方法委員会を中心に作成中であった日本協会編のテキスト『ハンドボール指導教本』が、今年6月に発刊されるに至ったので現場での活用を要望する発言があった。

大西委員長は『日本ハンドボールの目指す道』と題した基調講演の中で、①技術・指導の体系化が急務であること、②アジア選手権の敗北は、指導者の勉強不足にあること、③ハンドのゲームの3つの面（教育的、文化的、勝負的）がそろった指導者・選手が必要なこと、④指導者の研修機会が増大されること、を強調した。

平岡委員を中心としたアジア選手権での技術・戦術分析グループは、中国の特徴として、①保持ミスが多い、②個人戦術での得点が多い、③2―4攻撃に威力がある、④5―1ディフェンスは受け身で活気がない、⑤3―3のディフェンスが有効、を示した。また、韓国は、①攻撃の主体は3―3のパラレルである、②3―3から2―4攻撃に変化する瞬間をねらう、③センターからの展開はポストねらいが多い、④3―3ディフェンスが主体でフェイントの間あいをとらせない、などに特徴があることが報告された。また杉森報告は韓国のディフェンスフットワークにピッチステップが多用されていること、GKのキーピングにはパターンは少ないが、ディフェンスとのコンビにより片方は責任を持つ、という考えがあると思われること、を指摘した。

『世界のレフェリング分析』においては、大塚審判部長の1993年ルール改正の動向の報告のあと、フロアーから5人の監督の意見が出された。福井氏（大経大）は「抗議の方法が定かでない、ルールが徹底がされていない」、粟屋氏（本田）は「認められないのを承知で選手がタイムアウトを要求するのはレフェリーによって許可される現実があるから」と述べた。「レフェリーもできばえによって大会中ストップを！」、「レフェリーとコーチの不和はルールの解釈の不一致、もっと話し合いの場を！」など本質にせまる問題提起がなされた。大塚審判部長の報告や江成委員のアジア選手権59場面のテスト形式によるVTR解説によって相互の認識と協調はかつてなく深まったといえる。次の機会を確認し成功裡に終会となった。

各地学生春季リーグ戦

北海道学生

（5月15～17日／北見体育センター）

▼男子1部

北教大函館分 26－17 小樽商科大
函館大 39－7 道都大
北海学園大 20－13 北海道大
函館大 38－10 北教大函館分
北海学園大 31－15 小樽商科大
道都大 19－17 北海道大
函館大 37－10 小樽商科大
北海道大 30－14 北教大函館分
北海学園大 27－21 道都大
北海道大 18－11 小樽商科大
函館大 41－12 北海学園大
北教大函館分 29－29 道都大
道都大 31－23 小樽商科大
北海学園大 25－16 北教大函館分
函館大 29－16 北海道大

（順位）①函館大②北海学園大③道都大④北海道大⑤北海道教育大函館分校⑥小樽商科大

▼男子2部

札幌大 21－11 北教大釧路分
北見工業大 29－26 室蘭工業大
北星学園大 17－16 北教大旭川分
札幌大 36－23 室蘭工業大
北教大釧路分 22－15 北教大旭川分
北星学園大 25－24 北見工業大
札幌大 32－19 北教大旭川分
北見工業大 29－20 北教大釧路分
北星学園大 22－19 室蘭工業大
北見工業大 23－23 札幌大
室蘭工業大 32－16 北教大旭川分
北星学園大 29－25 北教大釧路分
札幌大 22－15 北星学園大
北教大釧路分 25－16 室蘭工業大
北見工業大 25－19 北教大旭川分

（順位）①札幌大②北星学園大③北見工業大④北海道教育大釧路分校⑤室蘭工業大⑥北海道教育大旭川分校

▼男子3部

札幌学院大 40－7 学園北見大
釧路公立大 31－26 北海道工業大
札幌学院大 41－17 北大医学部
札幌学院大 27－21 北海道工業大
釧路公立大 36－21 北大医学部
北海道工業大 34－16 学園北見大
北大医学部 20－12 学園北見大
札幌学院大 27－22 釧路公立大
釧路公立大 44－16 学園北見大
北海道工業大 21－17 北大医学部

（順位）①札幌学院大②釧路公立大③北海道工業大④北海道大医学部⑤北海学園北見大

▼女子

北海道女短大 26－14 北教大旭川分
北海道女短大 16－12 北教大旭川分

（順位）①北海道女子短期大②北海道教育大旭川分校

東北学生

（5月5～8日／東根市民体育館）

▼男子1部

仙台大 26－19 秋田大
東北福祉大 34－22 福島大
東北学院大 42－15 秋田大
岩手大 23－23 福島大
岩手大 19－17 秋田大
福島大 27－24 東北学院大
東北福祉大 35－15 岩手大
東北学院大 32－23 仙台大
福島大 26－23 秋田大
福島大 20－19 仙台大
東北福祉大 31－18 秋田大
東北学院大 45－15 岩手大
東北福祉大 21－16 仙台大
仙台大 15－15 岩手大
東北学院大 25－21 東北福祉大

（順位）①東北学院大②東北福祉大③福島大④岩手大⑤仙台大⑥秋田大

▼男子2部

弘前大 33－17 東北工業大
東北大 28－7 日大工学部
北星大 34－22 東北工業大
宮城教育大 38－8 日大工学部
東北大 28－14 弘前大
山形大 33－18 北里大
宮城教育大 28－21 山形大
東北大 32－20 北里大
弘前大 28－13 日大工学部
山形大 35－22 東北工業大
東北大 20－13 宮城教育大
北里大 27－21 日大工学部
弘前大 26－22 宮城教育大
東北工業大 23－19 日大工学部
弘前大 30－27 山形大
宮城教育大 41－17 北里大
東北大 24－11 東北工業大
山形大 40－10 日大工学部
東北大 25－18 山形大
弘前大 37－21 北里大
宮城教育大 26－20 東北工業大

（順位）①東北大②弘前大③宮城教育大④山形大⑤北里大⑥東北工業大⑦日大工学部

▼入替戦

仙台大 24－16 弘前大
秋田大 24－16 東北大

▼女子

福島大 44－3 宮城教育大
東北福祉大 48－4 宮城教育大
福島大 29－20 岩手大
東北福祉大 35－8 福島大
岩手大 45－2 宮城教育大
東北福祉大 40－14 岩手大

（順位）①東北福祉大②福島大③岩手大④宮城教育大

中四国学生

（5月19～21日／岡山県総合グランド体育館）

▼男子1部

広島経済大 18－16 山口大
山口大 25－19 松山大
山口大 20－19 愛媛大
広島大 27－15 山口大
松山大 17－17 広島経済大
松山大 16－15 愛媛大
広島大 19－14 松山大
広島経済大 15－12 愛媛大
広島大 25－10 愛媛大
広島大 18－13 広島経済大

（順位）①広島大②広島経済大③山口大④松山大⑤愛媛大

▼男子2部

岡山大 18－18 香川大
高知大 28－14 岡山大
徳山大 26－18 岡山大
広島修道大 18－15 岡山大
高知大 19－10 香川大
徳山大 27－25 高知大
高知大 28－18 広島修道大
徳山大 26－18 香川大
広島修道大 27－25 徳山大
香川大 20－19 広島修道大

（順位）①高知大②徳山大③広島修道大④香川大⑤岡山大

▼男子3部

近畿大 27－16 鳥取大
鳥取大 21－11 島根大
広島工業大 23－22 鳥取大
鳥取大 29－12 徳島大
島根大 21－19 近畿大
近畿大 27－20 広島工業大
近畿大 29－15 徳島大
広島工業大 24－21 島根大
徳島大 19－16 島根大
広島工業大 27－14 徳島大

（順位）①近畿大②広島工業大③

鳥取大④島根大⑤徳島大

▼女子1部

広島大 16－5 高知大
広島大 16－8 愛媛大
岡山県立短大 16－11 広島大
愛媛大 14－5 高知大
岡山県立短大 27－6 高知大
岡山県立短大 20－8 愛媛大

（順位）①岡山県立短期大②広島大③愛媛大④高知大

▼女子2部（X）

鳴門教育大 29－11 川崎医療福祉大
川崎医療福祉大 14－14 岡山女子短大
鳴門教育大 19－8 岡山女子短大

▼女子2部（Y）

岡山大 23－10 四国大
山陽学園短大 19－14 四国大
岡山大 24－7 山陽学園短大

▼順位決定戦

鳴門教育大 15－11 岡山女子短大
岡山女子短大 11－10 山陽学園短大
川崎医療福祉大 13－12 四国大

（順位）①鳴門教育大②岡山大③岡山女子短期大④山陽学園短期大⑤川崎医療福祉大⑥四国大

九州学生

（4月30日～5月4日／福岡大学第2記念会堂）

▼男子1部

福岡大 38－9 西南学院大
福岡大 32－15 沖縄国際大
福岡大 39－14 九州大
福岡大 36－10 宮崎大
福岡大 23－22 東和大
東和大 28－17 西南学院大
東和大 28－19 沖縄国際大
東和大 39－14 九州大
東和大 36－10 宮崎大
沖縄国際大 30－21 西南学院大
沖縄国際大 23－21 九州大
沖縄国際大 35－21 宮崎大
西南学院大 22－15 九州大
西南学院大 31－17 宮崎大
九州大 22－19 宮崎大

（順位）①福岡大②東和大③沖縄国際大④西南学院大⑤九州大⑥宮崎大

▼男子2部

福岡教育大 13－12 熊本大
熊本大 24－12 大分大
熊本大 20－17 鹿児島大
熊本大 26－21 琉球大
熊本大 32－17 鹿児島経済大
福岡教育大 29－24 大分大
鹿児島大 34－26 福岡教育大
福岡教育大 26－12 琉球大
福岡教育大 36－20 鹿児島経済大
大分大 22－15 鹿児島大
大分大 25－16 琉球大
大分大 26－20 鹿児島経済大
鹿児島大 28－28 琉球大
鹿児島大 29－24 鹿児島経済大
琉球大 29－20 鹿児島経済大

（順位）①熊本大②福岡教育大③大分大④鹿児島大⑤琉球大⑥鹿児島経済大

▼男子3部

九州産業大 24－22 熊本商科大
久留米工大 32－27 九州産業大
九州産業大 30－14 熊本工大
九州産業大 39－20 第一経済大
熊本商科大 26－21 久留米工大
熊本商科大 39－11 熊本工大
熊本商科大 25－21 第一経済大
久留米工大 34－12 熊本工大
久留米工大 27－23 第一経済大
第一経済大 37－17 熊本工大

（順位）①九州産業大②熊本商科大③久留米工業大④第一経済大⑤熊本工業大

▼男子4部（Aパート）

第一工業大 17－17 九州共立大
第一工業大 29－19 長崎大
第一工業大 34－19 日本文理大
第一工業大 39－13 西日本工大
九州共立大 31－22 長崎大
九州共立大 20－17 日本文理大
九州共立大 54－12 西日本工大
長崎大 28－23 日本文理大
長崎大 30－23 西日本工大
日本文理大 36－15 西日本工大

（順位）①第一工業大③九州共立大③長崎大④日本文理大⑤西日本工業大

▼男子4部（Bパート）

長崎総合科学大 24－20 福岡工業大
長崎総合科学大 26－16 産業医科大
長崎総合科学大 38－15 九州工業大
福岡工業大 20－20 産業医科大
福岡工業大 37－14 九州工業大
産業医科大 23－16 九州工業大

（順位）①長崎総合科学大②福岡工業大③産業医科大④九州工業大

第一工業大 31－24 長崎総合科学大

▼女子

福岡大 30－18 福岡教育大
福岡大 43－28 九州女子大
福岡大 29－13 沖縄国際大
福岡大 42－11 琉球大
福岡大 46－10 東海福岡短大
福岡大 38－7 熊本短大
福岡教育大 19－12 九州女子大
福岡教育大 26－11 沖縄国際大
福岡教育大 32－9 琉球大
福岡教育大 47－10 東海福岡短大
福岡教育大 38－10 熊本短大
九州女子大 21－18 沖縄国際大
九州女子大 22－14 琉球大
九州女子大 33－7 東海福岡短大
九州女子大 30－17 熊本短大
沖縄国際大 33－13 琉球大
沖縄国際大 37－11 東海福岡短大
沖縄国際大 27－16 熊本短大
琉球大 28－19 東海福岡短大
琉球大 24－18 熊本短大
東海福岡短大 23－14 熊本短大

（順位）①福岡大②福岡教育大③九州女子大④沖縄国際大⑤琉球大⑥東海福岡短期大⑦熊本短期大

▼入替戦

福岡教育大 17－14 九州大
※福岡教育大1部昇格
熊本商科大 20－19 琉球大
※熊本商科大2部昇格
長崎総合科学大 25－23 第一経済大
※長崎総合科学大3部昇格

※関東、東海、関西学生の春季リーグ戦の結果は、次号でお伝えします。

各地の大会結果

東北

第19回青森県春季社会人大会

（4月11、12日／七戸町立体育館）

〈男子〉

▼1回戦

野辺地クA 26－23 海自第2

航空群B

七戸ユニオンA 32－13 北里大

海自大湊 26－23 七戸ユニオンB

野辺地B 31－20 弘前大

▼2回戦

野辺地クA 12－0 青森マスターズ

青森ク 37－25 海自大湊

七戸ユニオンA 23－19 海自第2

航空群A

青商ク 25－19 野辺地クB

▼準決勝

野辺地クA 27－24 青森ク

青商ク 33－25 七戸ユニオンA

▼決勝

青商ク 36（18－14、18－9）23 野辺地クA

〈女子〉

▼1回戦

青森中央ク 18－14 MKC

あすなろク 20－11 野辺地ク

▼決勝

青森中央ク 20（10－6、10－10）16 あすなろク

第12回東北大会青森県予選会

（4月15日／七戸町立体育館）

〈男子〉

野辺地ク 35－27 七戸ユニオン

〈女子〉

野辺地ク 17－16 MKC

MKC 22－20 あすなろク

野辺地ク 21－21 あすなろク

第12回青森県高校春季地区大会

（4月25、26日／青森商高ほか）

●西地区

〈男子〉

▼リーグ戦

五所川原工 11－7 五所川原

鯵ヶ沢 13－5 柏木農

五所川原 11－10 柏木農

五所川原工 10－10 鯵ヶ沢

五所川原工 18－2 柏木農

鯵ヶ沢 11－6 五所川原

〔順位〕①鯵ヶ沢②五所川原工③五所川原④柏木農

●南地区

〈男子〉

▼1回戦

十和田工 18－7 横浜分校

野辺地工 17－8 三本木農

七戸 10－8 三本木

▼準決勝

野辺地 20－3 十和田工

七戸 11－9 野辺地工

▼3位決定戦

十和田工 15－13 野辺地工

▼決勝

野辺地 24－4 七戸

〈女子〉

▼リーグ戦

野辺地 26－0 野辺地工

六ヶ所 12－2 三本木

野辺地 14－3 三本木

六ヶ所 22－1 野辺地工

野辺地 11－3 六ヶ所

三本木 21－3 野辺地工

〔順位〕①野辺地②六ヶ所③三本木④野辺地工

●中央地区

〈男子〉

▼リーグ戦

青森商 27－12 今別

青森東 12－8 青森南

今別 28－13 青森

青森商 32－17 青森

青森東 22－17 今別

青森南 26－11 青森

青森商 29－14 青森山田

青森東 32－24 青森

青森山田 31－13 青森

青森商 34－13 青森南

青森山田 25－15 青森東

青森山田 21－11 青森南

青森山田 19－19 今別

青森商 24－12 青森東

今別 26－14 青森南

〔順位〕①青森商②青森山田③青森東④今別⑤青森南⑥青森

〈女子〉

▼リーグ戦

青森中央 27－8 青森商

今別 49－7 青森東

今別 28－15 青森商

青森西 36－5 青森東

青森中央 31－8 青森東

青森西 15－14 今別

青森商 28－11 青森東

青森中央 17－13 青森西

青森中央 26－21 今別

青森西 23－14 青森商

〔順位〕①青森中央②青森西③今別④青森商⑤青森東

関東

第15回群馬県クラブリーグ

（2月23日／前橋市民体育館）

▼予選リーグAグループ

富岡ク 31－12 群大OB

富岡ク 19－9 日立高崎

日立高崎 25－10 群大OB

▼同Bグループ

吉井ク 26－17 ゼクセル

吉井ク 26－19 富岡市役所

ゼクセル 26－15 富岡市役所

▼決勝

富岡ク 18（10－6、8－10）16 吉井ク

東海

第31回東海室内選手権

（2月8、9日／多治見市総合体育館）

〈一般男子〉

▼1回戦

大同ク 28－17 静岡教員団

岐阜教員 28－25 鵜ノ森ク

▼決勝

大同ク 28（17－13、11－12）25 岐阜教員

〈一般女子〉

▼1回戦

ジャスコ 40－9 岐阜教員女子

ブラザー工業 25－7 ポストク

▼決勝

ジャスコ 26（14－10、12－8）18 ブラザー工業

〈高校男子〉

▼1回戦

市岐阜商 20－18 四日市工

中京 16－15 清水市商

▼3位決定戦

四日市工 23－17 清水市商

▼決勝

中京 20（9－7、11－3）10 市岐阜商

〈高校女子〉

▼1回戦

清水市商 30－21 養老女商

名短付 24－13 暁

▼3位決定戦

暁 15－14 養老女商

▼決勝

名短付 33（14－8、19－10）18 清水市商

三重県春季大会

（4月12～19日／四日市南高校）

〈一般男子〉

▼1回戦

本田技研 44－10 三重教員
西笹川ク 34－14 鳥羽商船
鵜ノ森ク 29－19 鈴鹿高専
本田技研鈴鹿 25－22 本田ク

▼準決勝
本田技研 46－11 西笹川ク
本田技研鈴鹿 21－17 鵜ノ森ク

▼決勝
本田技研 29（13－7、16－6）13 本田技研鈴鹿

三重県高校春季選手権

（4月12日～26日／四日市南高校）

〈男子〉

▼1回戦
海星 13－9 四日市南
津西 13－10 津工
四日市四郷 15－5 高田
津東 21－10 名張西
桑名工 23－12 四日市西
四日市 27－7 津

▼2回戦
四日市工 27－3 海星
桑名北 12－0 尾鷲
津西 12－0 上野
四日市四郷 20－5 川越
亀山 22－8 津東
桑名工 27－8 上野工
桑名西 17－12 四日市中央工
桑名 18－10 四日市

▼3回戦
四日市工 31－4 桑名北
四日市四郷 25－2 津西
亀山 15－12 桑名工
桑名 20－12 桑名西

▼準決勝
四日市工 22－5 四日市四郷
桑名 11－8 亀山

▼3位決定戦
亀山 17－16 四日市四郷

▼決勝
桑名 16（8－8、8－7）15 四日市工

〈女子〉

▼1回戦
上野 15－2 桑名西
津東 28－3 尾鷲
四日市西 12－8 津
四日市 15－6 四日市南
桑名 23－5 川越
名張西 17－2 四日市四郷
四日市商 34－3 松阪女子

▼2回戦
暁 39－1 上野
津東 32－12 四日市西
桑名 13－11 四日市
四日市高 22－4 名張西

▼準決勝
暁 25－3 津東
四日市商 31－9 桑名

▼3位決定戦
津東 19－7 桑名

▼決勝
暁 17（10－5、7－5）10 四日市商

第21回三重県中学生春季大会

（4月19～26日／四日市南高校）

〈男子〉

▼1回戦
東員第二 21－19 菰野
西笹川 16－14 三雲
常磐 16－6 大安
笹川 24－4 天栄
四日市南 22－13 白子
西朝明 24－3 名張北

▼2回戦
亀山 31－9 東員第二
朝明 20－7 西笹川
笹川 20－6 常磐
西朝明 14－12 四日市南

▼準決勝
亀山 22－9 笹川
朝明 20－10 西朝明

▼決勝
亀山 20（9－7、11－7）14 朝明

〈女子〉

▼1回戦
東員第二 13－4 天栄
羽津 棄権 柘植

▼2回戦
西笹川 17－7 白子
北勢 16－4 菰野
阿山 24－2 大木
朝明 31－3 名張北
桔梗ヶ丘 15－3 四日市南
西朝明 11－2 大安
笹川 27－5 東員第二
亀山 22－3 羽津

▼3回戦
北勢 22－8 西笹川
阿山 13－10 朝明
笹川 17－6 桔梗ヶ丘
西朝明 10－9 亀山

▼準決勝
笹川 9－8 北勢
阿山 9－6 西朝明

▼決勝
笹川 14（5－7、9－5）12 阿山

第23回岐阜県中学校選手権

（4月29日／岐阜県民体育館）

〈男子〉

▼1回戦
神戸 15－13 岐南
松倉 23－17 境川
長森南 28－22 中央
蘇原 21－9 南濃
東部 20－12 竹鼻
陽南 17－10 笠原
大垣南 18－17 鵜沼
桜丘 31－5 平田
長森 22－15 日新
那加 31－7 興文
江並 19－18 笠松
高富 16－7 東山
星和 18－15 加納
羽島 24－8 西部
大垣東 15－13 稲羽

▼2回戦
赤坂 32－11 神戸
松倉 20－19 長森南
蘇原 25－12 東部
陽南 15－7 大垣南
桜丘 38－15 長森
那加 26－14 江並
高富 23－22 星和
大垣東 25－13 羽島

▼3回戦
松倉 23－21 赤坂
蘇原 25－12 東部
那加 20－15 桜丘

高富 14－11 大垣東
▼準決勝
蘇原 21－15 松倉
那加 17－11 高富
▼決勝
那加 27（14－5、13－5）10 蘇原

〈女子〉
▼1回戦
輪の内 7－6 中央
笠松 10－9 松倉
竹鼻 23－20 平田
星和 9－8 陽南
興文 15－6 鵜沼
稲羽 17－3 南濃
大垣南 17－2 長森
羽島 17－13 東部
長森南 7－6 日新
▼2回戦
大垣西 36－4 輪の内
笠松 9－6 江並
桜丘 29－3 竹鼻
日枝 13－7 星和
中山 12－11 興文
大垣南 12－8 稲羽
東山 17－10 羽島
那加 30－3 長森南
▼3回戦
大垣西 12－1 笠松
桜丘 15－14 日枝
大垣南 17－6 中山
那加 13－3 東山
▼準決勝
大垣西 14－6 桜丘
大垣南 14－12 那加
▼決勝
大垣西 17（6－5、11－6）11 大垣南

第29回岐阜県大会

（5月3、4日／岐阜県民体育館）

〈一般男子〉
▼1回戦
三洋電気 31－15 岐阜南ク
大垣ク 30－25 高山ク
岐大医学部ク 21－19 竹鼻ク
▼2回戦
岐阜教員 37－18 三洋電気
バブハウス丸栄 24－22 伊吹ク
大垣ク 30－29 岐阜西ク
日本耐酸壜 36－16 岐大医学部ク
▼準決勝
岐阜教員 棄権 バブハウス丸栄
日本耐酸壜 32－19 大垣ク
▼決勝
岐阜教員 25（16－13、9－9）22 日本耐酸壜

〈一般女子〉
▼1回戦
三洋電気 19－5 つぐみク
▼決勝
三洋電気 21（14－7、7－2）9 岐阜教員

〈高校男子〉
▼1回戦
羽島北 29－7 大垣西
岐阜南 23－13 岐阜工専
可児 16－6 岐山
海津 19－16 長良
加納 16－12 可児工
岐阜北 23－21 池田
▼2回戦
大垣工 21－13 羽島北
可児 34－24 岐阜南
海津 21－19 加納
各務原西 19－10 岐阜北
▼準決勝
可児 16－14 大垣工
各務原西 20－17 海津
▼決勝
各務原西 16（8－8、8－7）15 可児

〈高校女子〉
▼1回戦
羽島北 14－8 大垣女子
池田 22－6 可児
本巣 13－12 岐阜北
岐山 19－12 長良
▼2回戦
瑞浪 20－8 羽島北
海津 17－16 池田
各務原西 17－9 本巣
各務原 11－8 岐山
▼準決勝
瑞浪 24－9 海津
各務原西 18－12 各務原
▼決勝
瑞浪 24（11－5、13－5）10 各務原西

北信越

全国高校選抜北信越地区予選

（2月8、9日／長野・戸倉町総合体育館、更埴市民体育館）

〈男子〉
▼リーグ戦
氷見 28－15 屋代
北陸 20－16 金沢市工
氷見 31－15 三条工
北陸 37－20 屋代
金沢市工 28－13 三条工
北陸 21－17 氷見
金沢市工 29－20 屋代
北陸 32－9 三条工
氷見 23－17 金沢市工
屋代 25－23 三条工
（順位）①北陸（福井）②氷見（富山）③金沢市工（石川）④屋代（長野）⑤三条工（新潟）

〈女子〉
▼リーグ戦
小松市女 33－5 新潟江南
小杉 24－17 屋代
小松市女 20－12 福井商
小杉 25－11 新潟江南
福井商 32－5 屋代
福井商 15－10 小杉
小松市女 27－11 屋代
福井商 25－3 新潟江南
小松市女 22－15 小杉
屋代 17－10 新潟江南
（順位）①小松市立（石川）②福井商（福井）③小杉（富山）④屋代（長野）⑤新潟江南（新潟）

近畿

第25回滋賀県室内総合選手権

（2月9、16日／滋賀県立体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦
滋賀医大ク 20－11 大津自衛隊
▼2回戦
滋賀教員 棄権 滋賀大教育
彦根ク 15－12 ハンダース
彦根工高 23－4 栗東HBC
八日市高 18－17 長浜ク
東セラHC 21－20 モック
高島ク 26－13 滋賀医大ク
長浜北高 21－16 野洲ク
河瀬高 28－9 守山ク
▼3回戦
滋賀教員 25－15 八日市高
京セラHC 20－15 彦根工高
河瀬高 17－15 彦根ク
高島ク 19－14 長浜北高
▼準決勝
高島ク 20－8 河瀬高
滋賀教員 27－16 京セラHC
▼決勝
滋賀教員 21（11－9、10－9）18 高島ク

〈女子〉
▼1回戦
守女ク 13－12 彦根西高
八日市高 18－2 キンチャンズ
彦根西OG 11－6 彦根中央中
河瀬高 26－5 大津ク
▼2回戦
彦根商高 23－2 守女ク
松下電工 20－10 河瀬高
滋賀ク 14－12 八日市高
守山女高 23－6 彦根西OG
▼準決勝
彦根商高 18－11 滋賀ク
松下電工 15－13 守山女高
▼決勝
松下電工 22（10－9、12－6）15 彦根商高

全日本実業団選手権女子予選大会

（2月29日、3月1日／松下電工彦根工場体育館）

▼リーグ戦
JUKI 24－13 松下電工
豊田工機 24－11 三洋電機
JUKI 29－17 自衛隊体校
松下電工 35－9 豊田工機
自衛隊体校 35－7 三洋電機
自衛隊体校 34－6 豊田工機
松下電工 29－9 三洋電機
JUKI 34－5 豊田工機
自衛隊体校 12－10 松下電工
JUKI 45－3 三洋電機

〔順位〕①JUKI②自衛隊体育学校③松下電工④豊田工機⑤三洋電機※上位2チームが全日本選手権大会に出場。

第12回京都府高校選手権

（4月18日～5月2日／田辺中央体育館ほか）

〈男子〉
▼1回戦
南八幡 23－15 伏見工
京都学園 37－7 洛陽工
西宇治 26－5 木津
▼2回戦
洛北 24－14 南八幡
東山 34－6 洛東
平安 12－0 同志社
大谷 24－15 西乙訓
東宇治 40－10 北稜
城南 20－9 城陽
京都両洋 25－13 八幡
洛水 31－11 堀川
桂 27－16 京都学園
洛西 14－13 嵯峨野
日吉丘 11－6 久御山
北嵯峨 23－12 山城
東稜 17－6 乙訓
向陽 25－9 田辺
洛星 21－12 桃山
京都西 20－12 西宇治
▼3回戦
洛北 28－12 東山
大谷 27－12 平安
東宇治 19－10 城南
洛水 20－16 京都両洋
桂 24－7 洛西
北嵯峨 21－7 日吉ヶ丘
向陽 19－9 東稜
京都西 21－14 洛星
▼準々決勝
洛北 20－8 大谷
洛水 17－12 東宇治
桂 25－8 北嵯峨
京都西 12－11 向陽
▼準決勝
洛北 18－15 洛水
桂 26－11 京都西
▼3位決定戦
京都西 19－12 洛水
▼決勝
洛北 23（9－12、14－5）17 桂

〈女子〉
▼1回戦
京都女子 33－5 北稜
西乙訓 18－4 山城
府立商業 27－3 塔南
桃山 14－5 京都学園
北嵯峨 18－10 東稜
西宇治 9－7 西山
精華 19－17 南八幡
城南 16－1 乙訓
田辺 13－12 久御山
洛水 10－7 日吉丘
光華 12－8 桂
▼2回戦
洛北 31－11 京都女子
府立商業 16－7 西乙訓
桃山 27－12 洛東
洛西 12－10 北嵯峨
東宇治 14－3 西宇治
城南 19－12 精華
洛水 14－5 田辺
向陽 22－7 光華
▼準々決勝
洛北 35－3 府立商業
洛西 20－6 桃山
東宇治 17－8 城南
向陽 20－5 洛水
▼準決勝
洛北 28－5 洛西
向陽 17－14 東宇治
▼3位決定戦
東宇治 22－2 洛西
▼決勝
洛北 16（7－6、9－7）13 向陽

中国

全国高校選抜中国地区予選

（2月14～16日／鳥取・境港市民体育館）

〈男子〉

▼リーグ戦

下松工 32－3 江津
下松工 16－8 修道
下松工 22－7 総社
下松工 16－14 境港工
境港工 33－5 江津
境港工 30－9 修道
境港工 20－6 総社
総社 13－8 江津
総社 22－16 修道
修道 23－10 江津

〔順位〕①下松工（山口）②境港工（鳥取）③総社（岡山）④修道（広島）⑤江津（島根）

〈女子〉

▼リーグ戦

岩国商 37－13 江津
岩国商 15－11 山陽女
岩国商 21－11 境
岩国商 29－9 総社
山陽女 28－4 江津
山陽女 17－10 境
山陽女 13－5 総社
境 30－5 江津
境 12－7 総社
総社 16－8 江津

〔順位〕①岩国商（山口）②山陽女（広島）③境（鳥取）④総社（岡山）⑤江津（島根）

山口県総合選手権

（2月16日／山口県スポーツ文化センター）

〈男子〉

▼1回戦

岩国ク 25－12 宇部工専
徳山ク 29－25 豆子郎ク
山口県教員団B 29－22 熊倶楽部
美川ク 23－18 周南ク

▼2回戦

下松ク 25－21 岩国ク
山口県教員団A 34－18 徳山ク
下関ク 23－22 山口県教員団B
美川ク 23－18 徳山曹達

▼準決勝

山口県教員団A 21－17 下松ク
下関ク 22－16 美川ク

▼決勝

山口県教員団A 24（12－9、12－7）16 下関ク

〈女子〉

▼リーグ戦

徳山ク 18－10 山口ク
徳山ク 16－13 周南ク
山口ク 18－10 周南ク

〔順位〕①徳山ク②山口ク③周南ク

山口県春季一般選手権

（4月4～5日／山口県体育館）

〈男子〉

▼1回戦

岩国ク 19－15 周南ク
徳山ク 19－15 山口大
美川ク 17－9 宇部工専
興亜石油 棄権 山口県教員団B
徳山曹達 32－17 豆子郎ク

▼2回戦

山口県教員団A 26－14 岩国ク
美川ク 21－18 徳山ク
下松ク 30－20 興亜石油
徳山曹達 25－14 下関ク

▼準決勝

山口県教員団A 17－13 美川ク
下松ク 18－16 徳山曹達

▼3位決定戦

徳山曹達 23－18 美川ク

▼決勝

下松ク 23（11－11、12－9）20 山口県教員団A

〈女子〉

▼リーグ戦

徳山ク 28－13 山口ク
徳山ク 20－10 周南ク
山口ク 17－14 周南ク

〔順位〕①徳山クラブ②山口クラブ③周南クラブ

四国

愛媛県選抜二次予選

（1月11、12日／新居浜市尼体育館）

〈男子〉

▼1回戦

松山工 26－14 松山南
松山中央 18－14 今治西

▼準決勝

松山工 22－19 松山商
新居浜工 22－12 松山中央

▼決勝

新居浜工 26（16－7、10－8）15 松山工

〈女子〉

▼1回戦

新居浜東 11－10 松山西
今治東 19－10 今治南

▼2回戦

今治北 25－4 新居浜東
松山北 17－16 今治東

▼決勝

今治北 24（9－8、9－10、2－2、4－2）22 松山北

第10回山口県学生春季リーグ戦

（5月3、4日／山口大学体育館）

▼リーグ戦

山口大医学部 18－16 徳山工高専
山口大 25－18 徳山大
山口大医学部 24－14 宇部工高専
徳山大 25－14 徳山工高専
山口大 31－11 宇部工高専
徳山大 27－15 宇部工高専
山口大 39－8 徳山工高専
徳山大 23－18 山口大医学部
宇部工高専 25－18 徳山工高専
山口大 29－16 山口大医学部

〔順位〕①山口大②徳山大③山口大医学部④宇部工業高等専門学校⑤徳山工業高等専門学校

九州

全国高校選抜鹿児島県予選

（1月11～13日／隼人町体育館ほか）

〈男子〉

▼1回戦

加世田 23－12 頴娃

▼2回戦

鹿児島工 22－10 大島
国分 20－16 甲陵
鹿児島商 36－8 松陽
加世田 27－19 鶴丸
指宿 18－17 加治木
加治木工 17－11 甲南
鹿児島南 19－17 出水工
鹿児島中央 18－12 出水

▼3回戦

鹿児島工 36－9 国分
加世田 22－19 鹿児島商
加治木工 10－9 指宿
鹿児島中央 25－12 鹿児島南

▼決勝リーグ

鹿児島工 29－8 加世田
鹿児島中央 26－12 加治木工
鹿児島工 27－8 加治木工
鹿児島中央 19－14 加世田
加世田 18－14 加治木工
鹿児島工 21－12 鹿児島中央

〔順位〕①鹿児島工②鹿児島中央③加世田④加治木工

〈女子〉

▼予選リーグ

国分実 9－6 大島
鹿児島純心 26－4 指宿
国分実 34－2 指宿
鹿児島純心 9－9 大島
国分実 15－8 鹿児島純心
大島 18－3 指宿
鹿児島中央 10－8 牧園
鹿児島南 25－4 神村
神村 7－7 牧園
鹿児島南 36－6 鹿児島中央
神村 10－9 鹿児島中央
鹿児島南 22－13 牧園

▼決勝リーグ

国分実 35－4 神村
鹿児島南 24－8 大島
大島 17－8 神村
鹿児島南 17－13 国分実

〔順位〕①鹿児島南②国分実③大島④神村

福岡県高校大会

（5月3、4日／久工大附属高校）

〈男子〉

▼1回戦

久工大附 15－10 宗像
香椎 12－10 筑紫丘
浮羽 23－2 田川工
若松 15－14 新宮
泰星 17－16 小倉工
福岡 10－6 福岡西陵
春日 24－21 小倉西
九州産 22－7 西南

▼2回戦

久工大附 26－11 香椎
若松 22－14 浮羽
泰星 16－7 福岡
九州産 22－9 春日

▼準決勝

久工大附 29－17 若松
九州産 21－14 泰星

▼3位決定戦

泰星 33－19 若松

▼決勝

九州産 13（8－4、5－8）12 久工大附

〈女子〉

▼1回戦

香椎 15－10 春日
三井 16－7 小倉農
須恵 23－13 浮羽
早良 11－9 福岡女商

▼2回戦

九州女子 20－4 香椎
新宮 13－11 三井
福岡 20－8 須恵
筑紫女 31－4 早良

▼準決勝

九州女子 28－8 新宮
筑紫女 21－9 福岡

▼3位決定戦

福岡 12－6 新宮

▼決勝

九州女子 19（8－5、11－7）12 筑紫女

委員会だより

第3回ルール研究委員会議事録

［日時］平成4年5月22日（金）
3時50分～7時30分

［場所］日本協会事務局

［出席者］大塚審判委員長、島田ルール研究委員長、後藤、江成、花野、宮川

［議題1］レフェリー・シンポジュームの開催について

本年度実施の方向で計画・立案することとした。時期的には2月開催、受益者負担とする。

［議題2］トレーニングビデオの編集・販売について

平成3年の全日本総合の事例より、判定に関するトレーニングビデオの編集、販売をすることとなった。販売は、日本協会通して各都道府県協会、各連盟に販売することとした。

個人的には1本、監修料として500円を協会に納入することとして2500円とする。郵送、封筒代は別途500円とする。すでに編集済のテープも同様の扱いとする。

編集委員会から

編集委員会では、各地の大会結果をより早く、なるべく詳しくみなさんにお伝えしたいと願っております。どうか各地の大会の結果を日本協会あてお送りください。

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第三二一号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可 平成四年六月二十六日 印刷 平成四年七月一日 発行
東京都渋谷区神[illegible]一ー一ー一
電話 代表 (418) 二三六一
振替 東京 六ー五八三四八番
編集兼発行人 中澤重夫
定価三百五十円
(年間購読料三千三百円)